

## 平成 29 年度 第 1 回学校協議会 記録

日 時： 平成 29 年 6 月 17 日（土）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分  
場 所： 大阪府立布施北高等学校校長室  
出席者： 学校協議会委員 5 名、校長、教頭 2 名、事務長、首席、教諭 2 名

### 1 校長挨拶

### 2 平成 29 年度学校経営計画説明

【中期的目標】(1)学習活動の充実

(2)人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

(3)キャリア教育・進路指導の充実

(4)エンパワメントスクールの改編期の 3 学科の教育活動の充実と完成期へ向けての積極的な情報発信

【本年度の重点的取り組み】

#### (1)学習活動の充実

- ・五大規律
- ・1 年生 モジュール授業国数英各 3 単位
- ・ユニバーサルデザイン  
→ICT の活用＝わかりやすい授業づくり ⇒ 全教室にプロジェクタ・電子黒板
- ・1 年生エンパワメントタイム
- ・2, 3 年生 参加率が高まる実習の充実
- ・長欠者、中退者 ここ数年の中で徐々に低下

#### (2)人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- ・1 年生 複数担任制
- ・PTA 活動 保護者からの視点での意見
- ・生徒会活動
- ・人権教育 様々な地域 場面・発達状況に応じた対応が必要  
時には厳しく指導し、障がい者を含めた理解につなげる
- ・外国ルーツの子どもたち 今年度中国語ネイティブの先生の配置  
⇒昨年度よりも充実した支援へ

#### (3)キャリア教育・進路指導の充実

- ・1 年生 適性検査やインターンシップ、企業の方の講話など⇒進路未定率の減少をめざす
- ・デュアルの取り組みなど、生徒に体験させて、将来を考えさせる

#### (4)エンパワメントスクールの改編期の 3 学科の教育活動の充実と完成期へ向けての積極的な情報発信

- ・エンパワメントタイム 1 年生でスタート
- ・普通科+デュアル総合学科 教育の充実
- ・情報発信 出身中学に教員が訪問。通学想定区域。  
モニターを 1 階に 2 台設置→HP などにも今後活動を紹介していきたい

【意見】

- ・委員 A : 外国の習慣に関する内容を理解し合えることは行っているのか。  
せっかく多くの外国ルーツの子どもが多いのに、異文化理解を扱わないのはもったいない。  
⇒去年文化祭で、壁新聞で国ごとの文化を紹介した。渡日生は校外での発表など  
(WaiWai トークなど)。新聞を参照。地下鉄通訳ボランティアの表彰もあり。

- ・委員 A : アメリカは多国籍国家。それぞれの習慣を失わずに共生している。  
現在中国の人々が増えてきているが、彼らの習慣を理解することは言葉以上に必要。

### 3 現状報告（生徒の状況）

- ・欠席・遅刻：全体的に減少傾向
- ・クラブ加入率：今年度、1年生は約50%の加入率。学校全体として増加
- ・メロディーチャイム ⇒ 生徒がメロディーを聞いて教室に戻っていく。廊下にいる生徒がいない

#### 【意見】

- ・委員 B : 就職組は学内説明会が充実しているが、進学組はそうではないため、進学に関しては自分から動かなければならない。行って初めて様々な情報が得られる。そのため、進学希望者は足を運んでいただきたい。

子どもが教科の勉強をしたいとき、先生を捕まえたい。過去問の質問などは、個別で聞きたいときの対応をしてもらいたい。

- ・委員 B : 欠席遅刻について、先生から連絡があり、遅刻でもいいから学校に来なさいという声かけがあったからこそ、行けている。

⇒ 遅刻も欠席も多いが、第一段階として欠席率の低下に力を入れる

- ・委員 C : モジュールの時間について、中学1年で算数のかけ算や割り算、小数がわからない子たちに定着させる時間がない。中学でも学び直しをしてやりたい。小数が小学3,4年で出てくるため（10歳の壁）、そこまで戻って、中学でやってあげたい。

- ・委員 A : 小学校の5年生ぐらいで自分の適性を見出すことが必要。地域、クラス、環境が違うが、環境・先生方の指導力が大事。小5になると、考えがガラッと変わる。適性をもう少し早くわからせてあげることで、今後の立ち位置が変わってくる。中高の連携がもっと必要となるのでは。

### 4 協議

- ・委員 A : これから連携が必要。地域・中学と高校生とのつながり。最近キャリア教育で小学校、高校に行くことが増え、就職実績のない進学校でキャリア教育をやりたい、布施北の事例を聞きたい、という機会が増えてきた。逆に聞かせていただけたら、参考にしたい。

- ・委員 C : 中学との連携に感謝。大人にあこがれることは大事。小5,6になってくると自分が見えてくるため、幼少時のサッカー選手などへの憧れがなくなってくる。中学になると勉強に頭打ちしてしまう。

頑張っている高校生を見て、中学生があんな高校生になりたいと思える、身近な憧れの存在になってもらいたい。夢ではなく、具体的な目標として高校生がいることにより、中学生の意欲が上がる

- ・委員 A : PTA とコラボしてする活動があればいいのでは。卒業のときに思い出となってくるのは、PTA や他学年と一緒にいったことであり、めざすべき目標になってくる。まとまりの場・つながりの場が必要では？

PTA の役割が大きい。地域一体となって作り上げていくというのがこれからの理想。

- ・委員 D : 全体として、学校へくる子が増えているということがうれしい。一人一人の生徒が、ここへきて、友達と会い、一つでも多く学び、社会に出ていく人材となってほしい。数字は気にせず、一つ一つの事象に喜びながら、感動しながら、子どもを信頼してやってもらえたら生徒にも伝わるから、関係を築ける学校になってほしい。一つでも多く身につけて社会に出られる学びの場

を広げて欲しい。多くの先生から得た情報を発信してもらいたい。生徒も教員も学校も共有できるようにしてもらいたい。

- 委員 E：一人ひとりの物語を大切に、先生同士で共有して、お互いに頑張ってるね、すごいね、という雰囲気を作られればいい。布施北では生身の企業の方と出会って具体的に体験できるので、リアルな人と出会って、励まされ、社会と一緒に作っていくイメージがある。その点で、他校とは違う布施北らしい姿がみられるのではないだろうか。